

入学式式辞

本日ここに集われた学部・大学院・特別専攻科への入学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご来賓の本学後援会の奥村会長はじめ副会長の皆さん、および列席の本学理事・副学長、学部長とともに、皆さんの入学を心からお祝いいたします。

そして、入学までの皆さんの努力を讃えるとともに、数ある大学の中で、和歌山大学への入学を選択されたことに、敬意と感謝を表し、大きな喜びをもって皆さんをお迎えいたします。

また、本日は、入学生のご家族の方々にもたくさんご臨席いただいております。ご家族の皆さんの、これまでの子育てのご苦勞に敬意を表するとともに、お子さんの和歌山大学への入学の選択を承認していただいたことに感謝の意を表します。



さて、和歌山大学は、「生涯 あなたの人生を応援します」というメッセージを広く社会に発しております。これは、皆さんを迎える学長としての決意であり、和歌山大学教職員一同の決意の表明であります。

私は、本式辞において、入学生の皆さんにはもちろんのこと、とくにご臨席のご家族の皆さんに、和歌山大学は、皆さんの人生をどう受け止め、どう応援しようとしているのかについてお伝えするとともに、このメッセージについて、入学生の皆さんとご家族がご一緒に一度語り合っていただくことを願いたします。

和歌山大学は、2011～2013年行動宣言を公表していますが、その第一番目の項目に、皆さんの人生を大学教育機関として応援する考えを次のように表しています。

和歌山大学は、学生が子ども期から青年期に至る学習体験、生活体験等から生ずる人間形成上の諸課題をかかえていることを認識し、専門家になるための教育(専門教育 the art of being a professional)と同時に、人間になるための教育(教養教育 the art of being a human)が不可欠であると考え、この観点から本学における教育を編成します。

このように、本日から相対する皆さんを、私たちは、「人間形成上の諸課題をかかえている」と認識しています。冒頭、私は、「皆さんの入学までの努力を讃え」と申しました。皆さんの本学入学は、学力水準の達成によって判定されましたが、それは、皆さんが入試科目で一定水準を得る為の努力をされたことによるものです。しかし、これはこれからの人生の出発点に達したことに過ぎず、一人前の人間となるうえでは、まだまだ諸課題があるのです。人間として未熟な存在なのです。

以上の認識にたつて、卒業後の職業、工作上必要とする「専門家になるための」学習だけではなく、未熟な人間から「人間らしい人間となるための」学習の場と内容を皆さんに提供したいと考えています。それを天野副学長をセンター長とする「教養の森センター」がプロデュースします。そしてそのセンターは、大改装した附属図書館を拠点にしています。

これから、皆さんには、18年余の管理された学校生活という狭く閉ざされた生活経験から脱し、切実な課題、しかも容易に答えの出せない課題と格闘する大いなるフィールドに出て、多くの人々と出会い、人間としての未熟と無知を自覚し、「教養の森」に分け入り、図書館で歴史が蓄積した書籍・資料や、皆さんを応援する熱意をもった教職員と出会い、「人間となるための」学習に励んでいただきたいと思います。

以下は、「教養の森センター」HP(<http://www.wakayama-u.ac.jp/kyoyonomori/>)での天野副学長の呼びかけです。

「これからの時代—混沌として、決して明るい未来が約束されている訳ではなく、しかしながら、そうであるからこそ『教養』の力や『文化』の力が必要となり、それが人間の『幸福』にとって必須のものとなる時代を生きる、皆さんの一人一人に向けて、本学の教養教育の理念を掲げ、教養教育の内容を刷新し、その実施体制を整え、責任ある組織作りを推しすすめることを約束しています」。

(<http://www.wakayama-u.ac.jp/kyoyonomori/about/index.php>)

そして、「教養の森」には「最初は『おや?』と感じられる、意外な授業科目も含まれているかも知れませんが、これまで名前も知らなかった、まったく新しい授業科目に、度肝を抜かれることもあるかも知れません。でも、それは皆さんが大学生になったことの証(あかし)であり、その『面白さ』なのだと思って、さっそく『教養の森』の散策を始めてくれることを願います。」 (<http://www.wakayama-u.ac.jp/kyoyonomori/about/kamoku.php>)

少し付け加えて言えば、人間としての未熟さは、皆さんだけではなく、私も含めて教職員も同様だと自戒、自覚しています。私たち教職員も、皆さんとともに「人間となるための学習」を積み重ねていく所存です。

ご家族の皆さんに申し上げます。皆さんのお子さんは、先に申し上げましたように、学力水準においては絶対的にも相対的にも、立派な水準に達しておられます。これは数量的に判断できることです。一方、人間としての形成の到達については、いかに認識しておられるでしょうか。



自分の気持ちや考えを他者に伝えることができるか、そもそも自分や他者のことを考えることができるか、自分ができず他者を助け、自分ができないことは他者の助けを求めることができるかなど、何をもって「人間になる」というのか、こうした視点でも、ぜひお子さんの現在を見直していただくことをお願いいたします。そしてお子さんの、これからの「人間となるための」学習に同伴していただき、4年後には、彼女彼らが、人生の志に基づいて決定する自らの進路を受け入れてあげていただきたいと思います。

最後に重ねてお伝えいたします。和歌山大学は、「あなたの人生、とくに悩みぬくことを応援します」。悩むことは価値あることです。悩み方を知ること、これこそが厳しい時代において、人生を生き抜く、唯一最強の方法です。和歌山大学で、大いに悩み、大いに学び、大きく成長して頂きたいと思います。

皆さん、和歌山大学への入学本当におめでとう。改めてお祝いの気持ちをお伝えし、歓迎の挨拶といたします。

2013年4月5日

和歌山大学長 山本 健慈